

チェチェンの子どもたち日本委員会(JCCC)設立にあたって

参加・協力をお願い

新年明けにも準備会から、正式な会の発足をと思いながら、なかなか思うに任せず、半年が過ぎてしまいました。でもこの間にも進展はあり、これまでの林克明と明岡田一男に加えて、在日韓国人女性作家として中央アジアに強制移住させられた同胞取材の中で戦乱を逃れたチェチェン人たちと出会われて以来、チェチェンの子どもたちの将来に深い関心を寄せてこられた姜信子さんにも共同代表となつていただくことになりました。また、これまでチェチェン連絡会議に会計実務をお願いしてきましたが、会計を分離し岡田一男が会計を担当することとなり、既に郵便振替口座の開設などの手続きを完了しております。

つきましては、会の発足準備として、別添の規約は総会までの暫定的なものでありますが、目をお通しいただいて、まずは、呼びかけ人となつていただけるか？あるいは、1~2000円程度の年会費を納めて会員となつていただけるか？あるいは支持者として、会からの連絡は郵送、eメールなどで受け、個別の事案ごとに拠金などに応じるか考慮する、関心がないので余計な連絡はしないで欲しいといった、みなさまの意思表示をいただければ幸いです。

1991年に、それまで自治共和国には与えられていなかった連邦離脱権が、構成共和国並みに付与されたのに伴いソ連憲法の離脱既定に基づいて独立を宣言し、ソ連崩壊後には、ロシア連邦への参加を拒んだチェチェン共和国に対して、1994年秋にロシアが武力介入してロシア-チェチェン紛争が起きました。その翌春に、ロシア兵士の母親たちとチェチェン人の母親たちは、手を携え、ジャーナリスト、仏教・クエーカー教徒などの支援者とともに一台のバスに乗り込んで、モスクワからグローズヌイへ向かう道々で、戦争反対と平和実現を訴える母親行進を行いました。この平和を求めて、チェチェンの戦場に向かった「母親行進」の人道主義の行動に感動したアメリカ東部のロシア通の3人の婦人たちは、戦争の一番の被害者であるチェチェンの子どもたちを支援することで、連帯の気持ちを表現しようとして「チェチェンの子どもたち国際委員会(ICC)」を組織しました。

その後、1999年秋に第2次チェチェン紛争が勃発し、敵味方を区別することなく、「ヒポクラテスの誓い」に忠実な医療活動を展開した末、ロシア軍からもチェチェン武装勢力の一部からも命を狙われたハッサン・バイエフ医師が、米国に亡命すると、バイエフ医師に会の議長に就くことを依頼して、戦争という忌まわしい行為の犠牲者である、チェチェンの子どもたちへの医療支援を課題に活動を続けてきました。その中心メンバーの協力の中から、バイエフ医師の自伝「誓い チェチェンの戦火を生きた一人の外科医の物語」(邦訳版はアスペクト刊)の出版も実現しました。

そして日本のチェチェン支援運動もまた、同じ1995年春の「母親行進」の中から産まれました。チェチェンに向かう「母親行進」のバスには、3人の日本人が、同乗していました。彼らの見聞を聞き、報告を読む中で、チェチェン市民の平和への真摯な願いや、心の底からの叫びに感動した人びとが、創意工夫をこらして10年以上にわたってチェチェン

支援活動を続けてきました。その延長線上で、「誓い」の日本語版出版を機に、2006年に有志により結成された「ハッサン・バイエフを呼ぶ会」は、全国の多くの方々の協力により、ほぼ1年がかりでバイエフ医師の日本招聘を実現しました。これまで、幾つものチェチェン関連の招聘活動が行われていますが、とりわけ充実したものであったと言えると思います。2006年の訪日にあたってバイエフ医師からは、ICCCの活動をサポートする恒常的な組織を日本でも作って貰えないだろうかという要請がなされました。それに答えるべく、次のような問題提起をしてきました。

1. 「ハッサン・バイエフを呼ぶ会」は、中心メンバーが参加しているチェチェン連絡会議とは別個のより広い会として構想されました。東京の人間が中心であるチェチェン連絡会議と緊密な連携は続くとしても、新しい組織、「チェチェンの子どもたち日本委員会」に存在意義を持たせるのは、全国的なネットワーク、として機能することだと思います。とくにこれまでハッサンの講演会を組織して下さった地方の皆さんには、ご協力とご参加をお願いしたいと思います。
2. 「チェチェンの子どもたち日本委員会」は、透明性が確保され、民主的な運営を徹底します。国際的に検証された意義のある、十分に自助努力をしている支援対象を選んでゆくこと。このためには、チェチェンの子どもたち国際委員会をはじめ、色々な国々の支援組織と情報交換を活発に行ってゆくつもりです。
3. 様々な分野の専門家の参加、助言を得られるようなネットワークを構築する努力を続けること。当面 少なくとも2009年から2010年にむかっの活動の中心課題としては、次の幾つかを提案します。
 - a. ロシア全体の人権状況は、政府を批判するジャーナリストがたんに発言の場を奪われるだけでなく、肉体的にも抹殺されるという、きわめて大きな問題を抱え、北コーカサス全域にも不穏なものがありますが、チェチェン国内では、かなりの改善が、少なくとも平原部では見られます。大きな武力衝突が平原部では姿を消し、民間人が武力衝突に巻き込まれたり、誤認逮捕や拘束を受けるといった人権侵害が起こる頻度はかなり減りました。北コーカサス対テロ合同軍の作戦地域からチェチェン共和国が外され、取材などジャーナリズム活動を除いた外国人のチェチェン入りも自由化されています。ということで、ほぼ10年ぶりに、チェチェン国内で医療支援や文化支援を進められる可能性がでてきた訳です。「ハッサン・バイエフを呼ぶ会」は、バイエフ医師とICCCの活動に協力し、バイエフ医師が形成外科医としてチェチェン国内で形成外科医として医師活動に復帰することを助け、それを通じて戦争被害を受けたチェチェンの人びとへ支援を行ってきました。2008年中に、2回にわたってバイエフ医師が来日する中で、会は、「チェチェンの子どもたち日本委員会(準備会)」に名称を変え、バイエフ医師の3度目の来日にあたっては、多くのかたがたのご支援で、バイエフ医師が、チェチェンでの医療活動の中で強く望んでいた、低出力半導体レーザー医療機器のチェチェン導入を実現しました。2008年暮れにこれらの機器は、モスクワからグロズヌイに送達され、2009年1月中旬のバイエフ医師のチェチェン入りにより、試験的な運用が開始されました。また2008年秋、バイエフ医師の奔走により、2008年秋に、オペレーショ

ン・スマイルの国際医療チームによる口唇口蓋裂無償手術が、チェチェン国内で実施され、大きな成功を収めました。2009年の課題は、オペレーション・スマイルの第二回チェチェン・ミッションに日本の医療スタッフが実際に加わる事、それを確実に成功させる事、そしてその成果を恒常的、継続的な医療支援に繋げていくことと考えてきました。残念ながらアメリカの深刻な経済状況は、国際医療慈善団体の財政も直撃しているようで、この秋のチェチェン・ミッションは1年延期が決まりました。従って、この課題は2010年秋に向けての長期的な課題となります。

- b. 優れた映像作家であり、ジャーナリストでもあるザラ・イマーエワさんが、2004年から、アゼルバイジャンの首都バクーで進めているアートセラピーセンターDiDiの活動を支援しようと考えています。彼女の活動は、戦争などに起因する、子どもたちの心的外傷後ストレス障害（PTSD）の治療を芸術的な創造活動を通じて行おうというものです。その方法論は、紛争下の子どもたちの精神的ケアという点では、あらゆる紛争地域に普遍的なものを持っており、国際的に紹介に値するものと考えています。活動のツールとしては、現在日本語字幕制作中の彼女の最新作、チェチェン語による児童ミュージカル「お隣さん(Lulakhoy)」や、「私たちのDiDi」のビデオ上映会を全国的に働きかけたいと思っています。DVD頒布に当たっては、英語・ロシア語字幕版も併せて制作し、チェチェン国内外の子どもたちに「お隣さん」や「DiDi」のビデオを贈れるよう工夫したいと思っています。日本国内で、1枚DVDが購入されたら、2枚のDVDを無償でチェチェンコミュニティーに贈るといった仕組みです。また、ザラさんと姜信子さんが加わった、岡田一男によるドキュメンタリー「ディアスポラ(仮題)」の完成と、その上映活動も含めた中で、ザラさんの日本招聘が実現できれば素晴らしいとも思っています。
- c. 2008年1月からアムネスティ・インターナショナル日本の手を離れたドキュメンタリー・ビデオ「踊れ、グローブヌイ！」の上映活動やDVD頒布などを通じて、第3の支援対象として、ラムザン・アフマドフの青少年舞踊団「ダイモーク」が、会の支援対象として適切かどうかを検証してゆきたいと思います。ダイモークを日本に招くというのは、およそ50人の人びとを招くと言うことで容易ではありませんが、息の長い交流は可能でしょう。残念ながら、岡田の2008年秋のチェチェン訪問時には、「ダイモーク」は入れ違いにロシアに客演に出ており、直接、コンタクトができませんでした。現在、「ダイモーク」は、チェチェン共和国文化省直属の国立青少年舞踊団「ダイモーク」というステイタスで活動しており、今後の交流を通じて、実態を見極めることが大切だと思います。

会の規約案は、別添の通りです。いろいろと、ご意見をお寄せいただければ幸いです、会へのご参加を心よりお願いするものです。

チェチェンの子どもたち日本委員会あて

Fax : 03-3811-4576 あるいは

〒112-0001 東京都文京区白山 2-31-2-101 あてにご郵送下さい。

該当するもの（複数可）に○をつけて下さい。

1. 会の趣旨に賛同して、会設立の呼びかけ人となることを承諾する。
2. 会の趣旨に賛同して、年会費を支払い、会員となる。
3. 会員にはならないが、支援者として個々の事案に拠金などするから、会の連絡などは欲しいので、連絡リストに登録して欲しい。
4. 今後、連絡の必要はないのでリストから外して欲しい。

〒番号 :

ご住所 :

お名前 :

呼びかけ人になっていただける場合の

肩書き・ご所属など :

お電話番号 :

E-メールアドレス :

経費節約のため極力連絡は、E-メールを使いたいと思っています。既にE-メールをいただいている方も再登録をしていただけると助かります。